

令和6年度（2024）旭地区わくわく事業活動団体・事業

団体名	代表者	事業名	事業の概要	新規/継続
旭中サンライズプロジェクト	後藤 光弘	旭中サンライズプロジェクト事業	「旭 ハラペーニョ部！」 このテーマにした理由は、旭中とハラペーニョがつながっているということを知りやすく、短い言葉で周囲の人たちに知ってもらいたかったからである。 また、旭中学校の部活動のように、目的（旭地区のハラペーニョを活用した体験活動により、旭の魅力やハラペーニョの課題や現状を発信していくこと）をもって、全員で目的を達成するために地域の人たちと一緒に地域課題を考えながら企画を実施	継続
しきしま重点プロジェクト推進チーム	鈴木 辰吉	しきしま重点プロジェクト推進事業	令和2年に策定した自治区将来ビジョン「しきしま・ときめきプラン2020」に定めた3つの重点プロジェクト「支え合い社会創造」「農地保全」「未来への構造改革」を、目標年度である令和6年度までに大きく前進させ、自治先進モデルを構築する。もって、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らせる地域社会を実現する。	継続
旭もくもく会	伊藤 浩二	旭の木を使おまい事業	旭地区にある豊富な森林資源及び人的資源を活用し、旭産木材による木質化を推進することで特有の街並み景観を作り、観光拠点として地域活性と森林の循環的維持によるSDG s の目標に貢献する。	継続
太田に陽だまりプロジェクト	岡本 昌己	太田町民の憩いの場づくり	太田町のみんなが集う場といえば太田区民館であり、すぐ上の伊雑神社であるが、まわりは放置された人工林と野放しの竹林そして雑木ばかりである。その中でも特に区民館の前に位置する山の景観はみんなの目につく所であり、以前より話題になっていた。そこで今回、区民館前の山の雑木、竹林の伐採と人工林の間伐をしながら自然散策道を造成し、隣接する農村公園の活用も含め、太田町住民の憩いの場（散策を通して健康増進や住民同士の交流など）として、また、将来的には街の人たちとの交流の場になるようなイベントを企画し、利活用していきたい。	継続
小渡打囃子保存会 オイサーおど	松井 栄一	小渡地区伯母沢流打囃子伝承事業	伝統太鼓である小渡町の伯母沢流打囃子が次世代へ引き継がれるような体制が整備されているとともに、伝統太鼓をツールとした地域コミュニティの場として、世代を超えた交流が行われ、シックプライドの醸成が図られている。	継続
笹戸観光振興会	安藤 国夫	笹戸地区観光イベント支援事業	笹戸温泉街の旅館等が閉館や廃業する現状の中で、新型コロナウイルス感染拡大を経ても廃止することなく開催されている、笹戸地区内の観光イベントに対し、今後も継続して開催していくための支援をしていくことで、笹戸公園などの景色や自然薯などの食の笹戸地区の魅力を発信する機会を維持していく。 また、気持ちよく笹戸地区にお客様が訪れてもらえるように、草刈り等の環境整備も併せて行う。	継続
旭で和紙づくり	佐藤 友泰	旭の和紙復活事業	愛知県で初めて和紙漉きがされたと言われる旭地区で和紙づくりの復活と次世代の人たち（こども達）に和紙漉きの継承をし、こども達に和紙をとおして、やさしさ・生命の大切さ・環境の大切さ・伝統工芸の大切さを伝える。	継続
あそびまNAVI	柳澤 二郎	地域の特色を活かした魅力ある子育てのコミュニティづくり	令和6～8年度：竹工作、薪割り、野外調理、遊具づくり、養蜂、稲作、自然の中での遊びの講座を子ども主体で行い、交流人口から関係人口そして定住へとつなげる。 ※10年間行っている「あさひガキ大将養成委員会」に、みんなのしきしまプレーパークによる「地域の施設とコミュニティ、特色を活かした、魅力ある子育ての環境整備事業」、つくラッセルで行っている「くらし体験活動」を統合し、組織と事業内容を発展させて目的を達成する。	継続

団体名	代表者	事業名	事業の概要	新規/継続
幸せの黄色いハンカチ運動の会	安藤 幸典	安否確認旗の活動	隣人、町民の相互安否確認活動をする。担当者は特に一人暮らしの高齢者の旗の出し入れを確認し、異状の早期発見に努める。 活動を通じて、犯罪の抑止になる、町民の「助け合い」「連帯」意識が高まる、気力・体力の低下、病気、認知症などの早期発見ができるなどの効果を期待している。	継続
惣田花樹の会	三宅 貞夫	地域性を活かした景観向上事業	高齢者と地域の有志で集落の景観向上に取り組んでいたが、放任場所が目立つ場所がある為、さらに、ボランティア団体も協力して景観向上に取り組み魅力あるまちづくりを実現する。	継続
あさひ根っ子の会	松嶋 利光	林育推進事業	旭地区は面積のおよそ80%が森林で覆われているが山は放置林が多くなり山道は獣道と化し、結果、子ども達が山に入って遊んだり(木登り、秘密基地作り、竹細工や木っ端を使っての工作など)川に入って遊んだり(魚とりや水中生物の観察など)する姿を見ることがなくなった。そこで、杉本こども園の園児、小渡、敷島両小学校の児童、旭中学校の生徒を対象に年間の保育計画、授業計画の中で体験学習を盛り込んだ林育活動の機会を用意し、森のもつ豊かさに触れ味わう機会を創出する。また、地域住民に森林再生と森林資源活用の必要性を啓発する活動を行う。	継続
旭地区自主防災会連絡会	安藤 国博	防災アクション(安全だ安心な地域づくり推進)プロジェクト事業	避難情報だけでなく、災害につながる地域の前兆現象と危険に前もって気づくための気象情報等を活用し、地域住民自らが日常の状態から災害時の状態に切り替えるタイミングと行動を明確にし、危険になる前に自らの災害対応に結びつけ、個人や家族の備えを考えるうえでも役に立つと共に、自分が住む地域の防災情報を入手できるようにしたり、防災行動計画の考え方や防災対応の段取りを決めることで、いざというときに慌てずに行動できるように繋げる。 また、旭地域内関係組織との連携を高め、地域密着でしかできない活動などを組織間で情報共有しながら行政など公助の限界に対応できるように地域の防災力の強化することを目的とする。	継続
歴史と自然豊かな押井づくりの会	鈴木 辰吉	持続可能な農村モデル事業	地域住民と関係人口で協力して、持続可能な農村モデルを探求し、押井町内の貴重な歴史資源と周辺の豊かな自然環境を守る。 ●ふるさとアーカイブプロジェクト(押井町の人物・歴史・自然の取材記事、調査および記録を百科事典のようにホームページに掲載することで地域資源の魅力を見える化し、後世に残す) ●オープンコモンプロジェクト(地域を開き、地域自治を減少する住民のみによる「住民自治」から関係人口とともに取り組む「関係自治」に転換することで、新しい開かれた共同体をつくることによりふるさとを守る)	継続
しきしまときめきプラン策定委員会	林 義治	しきしまときめきプラン策定事業	「しきしま♡ときめきプラン2025」の策定 既存の計画(しきしま♡ときめきプラン2020)の計画期間が、令和6年度で終了するため、次の10年を見据えた長期構想及び5か年の活動計画を策定する。	継続
広畑さとやまプロジェクト	三嶋 秀樹	広畑さとやまプロジェクト	高齢化や人口減、生活スタイルの変化から山の手入れが行き届かなくなっており、付近の景観や日当たりも悪くなっている。さらには土砂崩れ等災害にもつながる。そこで、間伐や伐採をし、景観や日当たりをよくするとともに身近な山を公園等整備することで山を守る必要性を住民に理解してほしい。伐採した付近を公園として整備することで日当たりもよくなり、近くを流れる介木川や民家を明るく、より過ごしやすい町にしたい。	継続

団体名	代表者	事業名	事業の概要	新規/継続
あさひビーフォレストプロジェクト	鈴木 啓祐	蜂たちと豊かな森を育てる事業	地域の環境活動として、環境指標生物とされる日本みつばちを増やし、かつての里山のような森を整備することで、人の営みと自然との調和を大切にした、人と生き物が安全安心で豊かに暮らせる地域をつくる。	継続
浅谷蕎麦倶楽部	稲垣 信之	農地再生！赤そばの里事業	<ul style="list-style-type: none"> ①遊休農地を解消し、再生するため赤そば栽培を行う。 ②地域住民と一緒に取り組むことにより、地域の連携を強化する。 ③赤そばの里として観光名所とする。 	継続